



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

第2回 木曾圏域 自立支援協議会 重心コンダクターチーム会
安曇野市社会福祉協議会 障害者活動支援センター

ほっぷライフ 見学研修報告

日時： 平成 28 年 11 月 29 日（火） 10 時～14 時

場所： 安曇野市社協障害者活動支援センター ほっぷライフ

はじめに：木曾圏域は面積 1546.15 km² 人口 27,995 人（平成 28 年 4 月 1 日現在）。旧中山道（国道 19 号線）沿いに 3 町 3 村が南北に連なる山間地域。重症心身障がい児（0 歳～18 歳）の数は 5 名程度と把握されている。現状は児童発達支援センターや母子分離での預かりが可能な生活介護事業所などの、高度医療依存児者の日中の居場所がない。圏域のほぼ中ほどに基幹病院として県立木曾病院があり、圏域の南寄りに障がい者総合支援センター「ともに」がある。

今年度、「ともに」の障がい児コーディネーターの働きかけで、木曾病院の MSW を座長に、圏域の重症心身障がい児者地域支援コンダクターチームとして、自立支援協議会の中に重心 WG が立ち上がった。この WG の最初の取り組みとして他圏域の先行的取り組みを見学し、様々な職種のスタッフの話を聞いて、圏域の重症心身障がい児・者のための支援の仕組みづくりの参考にすることになった。

1 施設の概要

安曇野市社会福祉協議会ほっぷライフは来年度開設 10 周年を迎える。生活介護・放課後等デイサービス・児童発達支援・日中一時支援を行う。利用定員、登録、一日平均利用人数は表のとおり。利用者の 6 割が障害区分 6 で、人工呼吸器はじめ高度医療依存の重い障害を持つ人を積極的に受け入れている。

（表 利用者の状況）

サービス	定員 (名)	登録 (名)	1 日平均利用者 (名)
生活介護	20	39	10.4
放課後等デイ	10	30	6
児童発達支援	5	1	1

職員数は常勤 6 名、非常勤 12 名。そのうち、常勤の看護師が 2 名、非常勤看護師が 3 名。常時 3～4 名の看護師が、医療的ケアはもちろん、観察や姿勢保持などを受け持ち、安心・安全に過ごせるように努めている。

ほっぷライフでは朝 9 時から 15 時 30 分を生活介護サービスに充て、それ以降は放課後支援の時間となっている。看護師の添乗付きの送迎があるのがほっぷライフのありがたいところ（安曇野市内に限る）。また、アンケートで希望調査を行って、1 人の利用者に 1～2 名のスタッフがついて、映画、カフェ、猫カフェ、カラオケなどに出かける「個別外出」も好評とのこと。

課題としては、発達障がいや自閉症の利用者が増えてきているため障がいの多様性にスタッフが対応していかなければならないこと。そのスタッフも、少しずつ高齢化が進んでおり、力のいる移乗や入浴でのリスクが少しずつ増している感があるようだ。

利用費用は 1,000~3,000 円(本人もしくは家族の所得による)／一日。食事代(400 円)、お風呂(450 円)のみ自己負担。

2. 見学の様子

朝 10 時前に見学の木曾圏域の皆さんが到着。施設の概要説明の後利用者さんの居室で午前中の過ごし方を見せていただいた。特に、医療的ケアの必要な重症心身障がい児(養護学校卒業後数年、という成人移行期の人たち)のケアや家族との情報交換の方法を学んだ。

(右の帳票は家族との連絡票。)

ほっぷライフは福祉事業所なので、医療的ケアの指示書はじめ、利用者についての医療情報を病院から直接得るシステムを持たない。したがって、医療的ケアの手技や利用者の身体状況のアセスメントの基準も家庭で行っている通り(看護師さんによると「お母さんのいう通り」)に行わざるを得ない。

ただ、県立こども病院が近くにあり、MSW や療育支援部のスタッフとも連携が取れる(心理的にも近い)距離にあるため、どうしても心配な時には問い合わせることも可能とのこと。

ただし、平時はご家族からの情報と指示の下、利用者を取り巻く環境の

月 日 ()			
家庭より	朝の体温	°C	(排 尿) 有・無 (排 便) 有・無
	体 温	°C	入 浴
	血 圧	mmHg	脈 拍
施設より	昼食		おやつ
	○→小便 K→大便 ☆→発作 ////→睡眠		
月 日 ()			
家庭より	朝の体温	°C	(排 尿) 有・無 (排 便) 有・無
	体 温	°C	入 浴
	血 圧	mmHg	脈 拍
施設より	昼食		おやつ
	○→小便 K→大便 ☆→発作 ////→睡眠		

変化を小さくするためにも、家庭で受けているケアがほっぷライフに来てそのまま継続できるように努めているようだ。

(写真下：医療的ケアの必要な利用者と)

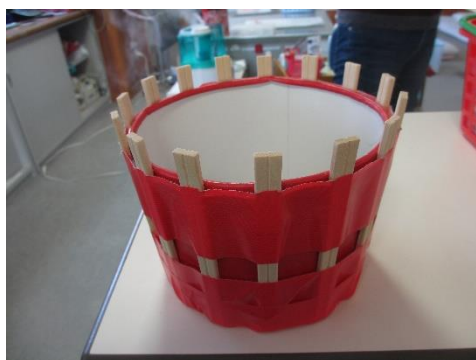
ほっぷライフの1年のイベントを紹介するスライドを見せてもらったり、壁面に飾られている利用者の作品を見たり、その作品の作り方や制作時のエピソードを、利用者と触れ合いながら伺ったりした。



また、午前中は利用者が順番に入浴されるので（入浴の様子は当然ながら見学できない）、入浴後の気管切開創部のケアの様子や胃ろう周囲のケアなど、実際の医療的ケアを見せていただいた。

(写真下：気管切開創部のケア
＝ くび紐の交換の様子を見学)

(写真下：太い毛糸を使って組みひものように組んでマフラーを作る道具。職員の手作り)



(写真 下・右 ともに入浴施設。ここでは入浴時は同性介護が基本)



3. 見学の感想

木曾では圏域内に、重症心身障がい児者の日中の居場所がないため、イメージがわかず、当初、何を学びたいかについては漠然としていた人も多かった。以下、職種ごとに当初「学びたい」「知りたい」と思っていたこと、見学研修を通して得たもの、そこからの課題、気づき、更に感想をまとめる。

①研修当初の「学びたいこと」

【行政職の方】

- ・具体的なイメージがわからない状態でしたが、まず見ることから、と思い参加させていただきました。
- ・地域の中で障がい児者の方々をどのように支えているか、どんなニーズに応えようとしているか
- ・どのような支援を行っているのか、支援に使われている器具にはどのようなものがあるのか

【サービス提供している事業所の方】

- ・木曾で障がい児が日中過ごせる場所は現在ないので一日の生活介護の流れを知りたかった
- ・重症心身障がい児の実際の入浴方法や支援の方法などを学びたいと思った
- ・気管切開の処置の実際（身近にいないので）

【相談支援業務担当の方】

- ・重症心身障がいの方が家以外で過ごせる場はどんな所か見たかった
- ・日中の重症心身障がい児者の方の生活をしっかり見て、木曾で取り入れられることは何かあるかを
知りたかった。知らないことばかりなので視察させて頂けて良かった。

- ・これまでに重症心身障がいの方に接する機会が数えるほど（お見かけする程度）しかなかった

【学校の先生】

- ・今関わっている子の卒業後のイメージを持ちたいと思いました。

②研修を通して得たもの

【行政の方】

・気切の方の入浴後のケアについて、紐の交換などかなり必要なことがあり、お母さんたちの負担もこれと同じなんだという認識をを改めて思いました

・何とか地域で支えていこうとしている思いが、まずは伝わってきて素晴らしいと思いました。お一人お一人に丁寧にかかわっており、普段からスタッフ間で意思統一を図られているのだろうと感じました。

・今回は少しだけ支援の内容を見学させてもらいましたが、もっと詳しく見学させていただきたいと思いました。

【サービス提供している事業所の方】

・行政を動かし高齢者だけではなく障害者が利用できるデイサービスを作っていく、その大切さがわかった

・どのような入浴をしているのか、説明いただき、機械も見ることができてよかった

・目の前にいる支援対象者を制度的な垣根で分けることは見る側の勝手な言い訳。高齢者が対象の現職の場で身障者を受け入れることに自分が構えすぎていたと痛切に感じた。

・吸引セット、人工呼吸器等コンパクトになっていてよかった。入浴の説明をしていただき勉強に

なりました。

- ・創作活動や行事の内容が濃く、利用者さんの生き生きした姿につながっていること

【病院の方】

在宅で生活している中で通所でこのような事業所があることはご家族にとってもとてもありがたいと思いました。木曾地域で在宅で生活：安心して生活できるような社会資源ができればよいなと思いながら見学させていただきとても勉強になりました

【相談支援業務担当の方】

・できることを探し、その人に合った活動を取り入れてやっていること。女性のパワーを感じました。

・実際に支援の現場を見学させていただくことで、これまで漠然と重心コンダクターチーム立ち上げに携わっていたものが具体的なこと、身近なこととして感じられるようになった。木曾でできることを、今できることを考えていきたい

・ごく自然に過ごされていた。それは職員の方々の知識や技量によるところが大きいと思いましたが、家や病院以外でも普通に過ごすことができるんだと感じた。

【学校の先生】

・入浴施設や日中の活動の様子を実際に見ることができ、具体的なイメージを少し持つことができたかな、と実感しました

壁面や天井にたくさんの作品や装飾があって、とてもあたたかな施設だと感じました。毎日明るく楽しく過ごすためにとても大事なことだと改めて感じました。個人で好きなことを活動してらっしゃる姿も印象的でした。

③今後の課題・気づき

【行政の方】

・課題はたくさんありすぎてため息が出そうでしたが、できることから取り組んでいこうと思います。障がい者に特化した施設でなくても高齢者の方と一緒に基準該当という形でも何か考えることはできるのかな、等。

・必要とされているサービスであり、施設であると思うが、どのように声を挙げて形にしていけばよいか。この重心コンダクターチームと一緒に考えていきたい。利用者の下端お様子から、在宅でのご家族の心配や不安も感じられ、そうしたご家族の思いもバックに感じながら支援をしていかななくてはなあ~と思いました。

・職員の方に対してですが、支援の際に気を付けていることなどを聞いてみたいと思いました。

【サービス提供している事業所の方】

・個人で動けること、やれることは限界があるので木曾郡全体がまとまる。高齢者が利用しているデイサービスに併設して障がい者デイサービスを作ってい

・木曾でもこのようなサービスを受けられるところがあるとよいと思います。

・地域に重症心身障がい児者の方に専門的にかかわる人材を育成していく必要がある

・木曾での重症心身障がいの方との接し方が勉強になりました。お金が絡むので欲は言えませんが、木曾にもこんな施設がほしい。

【病院の方】

・課題というか、地域で生活する中で医療機関と事業所：連携、ネットワークづくりをより一層深めることにより、安心して生活できればと思います。ほかの事業所のことをみて、知り、繋げていく。見学してみることに今回も勉強になったのでまずはそこから始めればと思います。

【相談支援業務担当の方】

・木曽にも生活介護事業所はありますが、重症心身障がい児者の方を受けするには建物の構造の問題があります。それさえクリアできれば重心の方の受け入れもできると思います。

・やり方を工夫すれば木曽でも可能になっていくのではないかと思います、事業所と社協がコラボして取り組むこともいいかも。手がかりを頂けました。日常携わっている方々に伝えたいと思います。

・木曽で障がい者支援に関わる多くのものがこういった事業所の見学をさせていただき、まずは知るところから、そして木曽でできることを考えるきっかけになればよいと思った。

【学校の先生】

・学校では、日々の学習の中でその子ができる力：持っている力を最大限引き出せるような活動を行っていくことで卒業後の生活に少しでもつながればいいな、と感じました。卒業後、その子が豊かに生活していくためのコミュニケーション力、余暇活動等、学校でたくさん引き出していきたいです。

④今後の取り組みに役立ちそうなこと

【行政の方】

・ほっぴライフさんの基本目標「地域でどんなに障害が重くても生活できる支援」ということを実践していること、これが普通なんだということ在地域の中で根付いていけるような働きかけが大切だと思いました

・事務仕事が多なので（支給決定）今回の研修では支援の内容や支援に使用している器具を見せていただいたので勉強になりました。日中に生活できる場が整っていることはとても良いことであると感じました。

【サービス提供事業所の方】

・経管栄養や胃ろうを実際に見ることができ、方法も知ることができたので今後役立てていきたい

・その人自身をしっかりとらえ、必要な支援を工夫も取り入れてしていく姿勢を学ばせてもらいました。

・職員の方の利用者さんへの優しい声掛けは見習わなければ、と思います

・目で見るということはすごく勉強になりました。利用者さんの表情も明るかった。

【相談支援事業所の方】

・利用者さんからアンケートを取って個別外出でカフェに行ったり映画を見たり、電車に乗るなどできることがすごいと思った。（事業所側で企画するのみではなく、利用者の個々の思いを反映しようとする姿勢が）

⑤感想

【行政の方】

・圏域の多職種で集まってこうしてここに見学に来ていることの意味は大きい。家でそのように過ごし

ているかを思うと負担の大きさに気づかされる。木曾のご家族の負担・不安を軽減したい。

・市町村の支給決定担当者はサービスの具体的な姿を見ることがないので、日常生活支援用具や生活そのものの様子を見ることで制度が支えている生の暮らしを理解できた。

【病院の方】

・多職種でこうして集まって動き出したコンダクターチームの活力を生かしていきたい。在宅では2時間ごとの体位交換や吸引、その負担は本当に大きいので、施設入所を選ぶことになる。できれば家庭で暮らせるように地域で支えたい

【相談支援業務担当の方】

・ショートステイで過ごすにしても、病院はやはり病院。福祉事業所は暮らしの場であると感じた。支援は思ったよりシンプルでやればできるような気がする。建物は借りるなりなんとでもできそうだから人材の育成と確保を。

・実際の様子を見ると理解もできるし木曾でもできそうな気がしている。今日の共感を圏域に持ち帰り前に進みたい。

⑥今後受けた研修

- ・障がいの特性について、かかわりの要諦
- ・救急対応研修
- ・重症心身障がい児者の送迎
- ・家族支援について。家族会のお話を聞きたい

4. まとめ

圏域の多職種と一緒に、他圏域の施設を見学する、という今回の試みは、以下のような効果があったと思われる。

- ① 重症心身障がい児者をはじめとする障がい児者のための日中の居場所が、木曾圏域にはないため、サービス内容はもちろん、施設の雰囲気やスタッフの働く様子など、これまでイメージできなかった。今回の見学を通して「こういう施設が我が圏域にもほしい」という思いが多職種間で共有できたこと。
- ② 医師のいない環境下で医療的ケアの必要な人を預かることへの不安も、実際の支援の様子を見ることで解消され「私たちにもできるかもしれない」という思いが湧いた方が多かった。
- ③ 福祉サイドのみならず、行政や学校、病院感銘者もともに見学、意見・情報の交換を行ったことで、それぞれの職種・立場でやれること、やれそうなことを具体的に話し合い、共有できた。

今回の見学の成果や気づきを圏域に持ち帰っていただき、新たな活動や支援資源の開拓のために活動していただければこんなにうれしいことはない。